

3日 木曜

エレミヤ

27:1 ヨシヤの子、ユダの王エホヤキムの治世の初めに、主からエレミヤに次のようなことばがあった。

27:2 主は私にこう仰せられる。「あなたはなわとかせとを作り、それをあなたの首につけよ。

27:3 そうして、エルサレムのユダの王ゼデキヤのところに来る使者たちによって、エドムの王、モアブの王、アモン人の王、ツロの王、シドンの王に伝言を送り、

27:4 彼らがそれぞれの主君に次のことを言うように命じよ。『イスラエルの神、万軍の主は、こう仰せられる。あなたがたは主君にこう言え。

27:5 わたしは、大いなる力と、伸ばした腕とをもって、地と、地の面にいる人間と獣とを造った。それで、わたしの見る目になつた者に、この地を与えるのだ。

27:6 今、わたしは、これらすべての国をわたしのしもべ、バビロンの王ネブカデネザルの手に与え、野の獣も彼に与えて仕えさせる。

27:7 ・・彼の国に時が来るまで、すべての国は、彼と、その子と、その子の子に仕えよう。しかし時が来ると、多くの民や大王たちが彼を自分たちの奴隷とする。・・

27:8 バビロンの王ネブカデネザルに仕えず、またバビロンの王のくびきに首を差し出さない民や王国があれば、わたしはその民を剣と、ききんと、疫病で罰し、・・主の御告げ。・・彼らを彼の手で皆殺しにする。

27:9 だから、あなたがたは、バビロンの王に仕えることはない、と言っているあなたがたの預言者、占い師、夢見る者、卜者、呪術者

に聞くな。

27:10 彼らは、あなたがたに偽りを預言しているからだ。それで、あなたがたは、あなたがたの土地から遠くに移され、わたしはあなたがたを追い散らして、あなたがたが滅びるようにする。

27:11 しかし、バビロンの王のくびきに首を差し出して彼に仕える民を、わたしはその土地にいこわせる。・・主の御告げ。・・こうして、その土地を耕し、その中に住む。』』

異邦人の王であるネブカデネザルに服従するようにと命じるのは、意外であり神の命令ではないように感じます。ここに神様の歴史性があります。神様が導かれる歴史は、あくまでもこの世であり、神を信じない人々の集合体です。しかし、その異教の民をも用いて、主は歴史を動かさるのです。

ですから、異教の王にも従うようにとの命令があるのです。これは善悪の問題ではなく、「時が来ると、多くの民や大王たちが彼を自分たちの奴隷とする。・・」という、その時までのことです。

主の御手が不信者の権力者をも導いていることを覚えましょう。職場や、学校などの人間関係の中でも、主がどのように働いておられるかを、教えていただき、主が教えてくださる知恵を生かしましょう。



①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

